

「航空運送事業脱炭素化推進計画」の認定について



スカイマーク株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役社長執行役員:本橋^{もとはし}学^{まなぶ})は、このたび、国土交通省より「航空運送事業脱炭素化推進計画」について認定を受けました。

本計画は、国土交通大臣が定める「航空脱炭素化推進基本方針」に基づき、各航空会社が策定するものです。

当社は2050年までにCO2排出量を実質ゼロにすることを目指し、まず2030年度までに「当社が使用する航空燃料の10%をSAFに置き換える」ことを目標に掲げています。また、運航の効率化や新技術の導入を通じて、持続可能な航空輸送の実現に向けた取り組みを強化してまいります。

当社はこれからも、「『空』を通じて、社会をより良く。」というサステナビリティ基本方針のもと、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

以上

<ご参考>スカイマークのサステナビリティ情報 <https://www.skymark.co.jp/ja/company/#sdgs>

「サステナビリティ基本方針」

「空」を通じて、社会をより良く。

スカイマークは、公共交通インフラとして、我々のミッションである「あらゆる人々に、安全で安心かつ高品質な航空サービスを、身近な価格で提供する」ことを通じて、社会の持続的な発展に貢献します。

スカイマークのサステナビリティ

スカイマークの存在意義。それは「空」を通じて、社会をより良くすることです。当社の事業である「航空機でヒトとモノを運ぶ」ことを通じて、社会の持続的な発展に貢献しています。

「航空機でヒトとモノを運ぶ」を少し掘り下げてみましょう。私たちはただ航空機を運航しているのではありません。「あらゆる人々に、安全で安心かつ高品質な航空サービスを、身近な価格で提供する」。これが、スカイマークのミッションです。

ここで大事なポイントは4つあります。1つ目は「安全で安心」。事業の継続において最も基本的な要素であり、言うまでもなく、すべてに優先するものです。

2つ目は、「あらゆる人々に」という点。公共交通インフラとして、誰一人取り残さない社会の実現に貢献するために、この視点は欠かせません。様々な立場の人が安心して利用できるサービスを提供します。

3つ目の「高品質」というのも重要な要素です。スカイマークは、定時運航など、公共交通インフラとしての基本の品質にこだわり、その品質を高めていきます。

最後に「身近な価格」。これはスカイマークを最も特徴づける要素です。国内の航空業界において競争環境を生み出すことを目的に設立されたスカイマークは、今日まで身近な運賃を提供し続けてきました。

「あらゆる人々に、安全で安心かつ高品質な航空サービスを、身近な価格で提供する」。このミッションを追求することが当社の最大の社会貢献だと考えています。

「空」を通じて、社会をより良く。私たちスカイマークは、これからも社会の持続的な発展に貢献していきます。



スカイマーク株式会社
代表取締役社長執行役員
本橋 学

スカイマークについて www.skymark.co.jp/

スカイマークは、1998年9月19日に羽田＝福岡線で就航した航空会社です。日本の航空業界における規制緩和により誕生しました。機材はBoeing737-800型機(177席)を29機使用し、国内12空港24路線※季節定期便を含むを運航しています。安全確保を前提に、高い運航品質とシンプルで心のこもったサービスを身近な運賃で提供する独自のビジネスモデルを追求し、公益財団法人日本生産性本部サービス産業生産性協議会が公表するJCSI(日本版顧客満足度指数)調査では、新幹線を含む国内長距離交通部門における「顧客満足第1位」を、2020年度、2022年度、2023年度および2024年度の4度にわたり獲得しています。

スカイマーク品質。

